

ルーブリック評価の例と作り方 (2014. 8. 7作成)

I. ルーブリック評価の例

1. 龍谷大学

Kawaijuku Guideline 2013. 4・5 「学修成果の評価」(朝日新聞×河合塾 共同調査 第5回) (提供 龍谷大学文学部)
http://www.keinet.ne.jp/gl/13/04/hiraku_1304.pdf

<表1>文学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック (項目の一部を抜粋)

※1 このアカデミックスキル・ルーブリックは学生の皆さんが、龍谷大学の文学部生として求められるスキルを、どの程度達成できているかを確認するためのものです。

※2 おりにふれて、このルーブリックで自分の学修状況を振り返り、自身の学修に足りないものを確認し、各自の学修を深めるツールとして利用してください。

学位授与の方針		相当の努力を要する	やや努力を要する	十分満足できる	期待している以上である
知識・理解	人間社会の根本を見つめるために、「言語(ことば)」の持つ力を深く理解することができる。	「言語(ことば)」の持つ力をまったく理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語(ことば)」の持つ力が必ずしも理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語(ことば)」の持つ力が一定程度理解できている。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語(ことば)」の持つ力が深く理解できている。
	テキストの正確な読解に基づいた、人文学の幅広い教養を身につけている。	テキストの読解ができず、教養の学修も進んでいない。	学科・専攻の教育理念に基づき、テキストが正確に読解できず、教養の学修も不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、一定程度テキストの読解ができ、幅広い教養を学んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、テキストの正確な読解ができ、幅広い教養が身についている。
	幅広い学問領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができる。	多様な領域からの見解をまったく理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な領域からの見解をあまり深く理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な領域からの見解を一定程度理解できている。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な領域からの見解を深く理解できている。
思考・判断	人間や社会の諸問題について主体的・積極的に判断し、対応できる。	現代社会の諸問題についてまったく取り組めていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題について必ずしも積極的に取り組めていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題について一定程度取り組んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題について積極的に取り組んでいる。
	課題の探求、発見、追究、解決という一連のプロセスを達成する能力を身につけている。	課題の探求から解決にむけた能力がまったく身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力がある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が十分身につけている。
	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができる。	多様な思考力・判断力がまったく身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な思考力・判断力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な思考力・判断力が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な思考力・判断力が身につけている。

<表2>卒業論文ルーブリック (項目の一部を抜粋)

※卒業論文にかかわる学修進度の目安です。あくまで一例ですから、詳細は各学科・専攻の教員の指導に従ってください。

※成績評価は、「演習Ⅱ」「論文評点」「口述評点」の総合評価によります。

	1	2	3	4	5
先行研究	国内の先行研究を把握できていない。	国内の先行研究を把握しているが、整理して説明できない。	国内の先行研究を把握し、整理して説明できる。	国外の先行研究も把握しているが、整理して説明することができない。	国内外の先行研究を把握し、整理して説明できる。
問題設定	問題の設定が曖昧である。	ある程度明確な問題を設定しているが、適切な問題であるとはいえない。	ある程度、明確で適切な問題を設定している。	適切で明確な問題を設定しているが、独創性はない。	適切で明確な問題を設定しており、独創性がある。
考察	資料の分析に基づいておらず、論理的整合性にも欠ける。	概ね資料の分析に基づいているが、論理的整合性に欠ける。	概ね資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、論理的整合性をもった考察を加えている。

2. 東洋大学「シラバス」

<http://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/1077.pdf>

ルーブリックの一例

	3	2	1	0
授業での発言	●根拠を示して説得的な意見を述べる ●新たな論点を提示する	●希望を述べる ●他者の意見への賛成反対	●好き嫌い ●単なる感想	●発言しない
レポート 課題選択	●課題と自己との関係を説明 ●課題と社会との関係を説明	●単なる興味関心の表明	●何となく	●記載されていない
引用研究（文献）の理解度	●論文の枠組みに沿って客観的に記述 ●文献の目次に沿って客観的に記述	●内容の一部のみ説明 ●恣意的な引用と説明	●不適切な引用誤読 ●引用と意見の混在	●カット・アンド・ペースト（不正行為）
レポートの意見	●根拠を示して、論理的に文献・論文の内容に対する意見	●引用文献と関係のない意見 ●第三者の意見の引用	●好き嫌い ●単なる感想	●カット・アンド・ペースト（不正行為）

3. 沖裕貴「大学におけるルーブリック評価導入の実際— 公平で客観的かつ厳格な成績評価を目指して —」、立命館高等教育研究 14 号

http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/itl/outline/kiyo/kiyo14/06_oki.pdf#search=%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%96%E3%83%AA%E3%83%83%E3%82%AF%E8%A9%95%E4%BE%A1+%E5%AE%9F%E9%A8%93

表 4 第一段階のルーブリック例（手順 2）

第一段階ルーブリック…初年次教育やオムニバス授業など複数の担当者が関与し、科目開発を行う場合に、担当者が協同して開発し、提示する

到達目標	F (不可)	C (可)	B (良)	A (優)	S (秀)	評価比率
①基礎的な美術史の用語を理解し、それを用いて作品を説明できる。	(～ 11 点) 美術史の用語を用いて作品を説明できていない。	(12 点～ 13 点) いくつかの間違いもあるが、基礎的な美術史の用語を用いて最低限の説明ができています。	(14 点～ 15 点) 大きな間違いがなく、基礎的な美術史の用語を用いて説明ができています。	(16 点～ 17 点) ほぼ完璧に美術史の用語を用いて説明できている。	(18 点～ 20 点) 本作品を美術史的に説明する模範解答である。	20%
②企画展、常設展、公募展、巡回展、回顧展、テーマ展などの展覧会を区別できる。	(～ 8 点) 展覧会が区別できていない。	9 点～ 10 点) いくつかの間違いもあるが、各展覧会の定義を最低限押さえている。	(11 点～ 12 点) 大きな間違いがなく、各展覧会の定義を踏まえて区別できている。	(13 点～ 14 点) ほぼ完璧に定義を踏まえた区別ができている。	(15 点) 展覧会の区別について模範解答である。	15%
③展覧会の企画主旨を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。	(～ 14 点) 企画趣旨に対する自らの考えを適切に述べていない。	(15 点～ 17 点) いくつかの論理的な問題や事実誤認あるいは誤字脱字もあるが、企画趣旨に対する自らの考えを最低限述べている。	(18 点～ 20 点) 大きな論理的な問題や事実誤認がなく、企画趣旨に対する自らの考えを述べている。	(21 点～ 23 点) ほぼ完璧に企画趣旨に対する自らの考えを述べている。	(24 点～ 25 点) 展覧会の企画趣旨に対する自らの考えを述べる模範解答である。	25%
④県内・国内で開催されている展覧会情報を集めて、心の琴線に触れた展覧会を見に行き、企画趣旨や作品について批評することができる。	(～ 24 点) 展覧会を見に行っていない (0 点) か、行ってもレポートを提出していない (0 点)。あるいは評価できるレベルに達していない。	(25 点～ 27 点) 実際に展覧会を見に行き、企画趣旨を読み取り、作品に関する最低限の批評を述べている。	(28 点～ 31 点) 実際に展覧会を見に行き、大きな間違いなく企画趣旨を読み取り、作品に関する批評をまとめている。	(32 点～ 35 点) 実際に展覧会を見に行き、ほぼ完璧に企画趣旨を読み取り、作品に関する自らの批評をまとめている。	(36 点～ 40 点) 実際に展覧会を見に行き、企画趣旨の読み取りや作品批評に関して模範的なレポートである。	40%

表6 「現代の教育」(教養の授業で筆者が担当、約400名が受講、2012)の第二段階ルーブリック(手順3、加点法)

第二段階ルーブリック…レポートや学生の活動評価のための評価の観点を明示し、その評価基準を策定する。受講生への事前通知が望ましい。

(課題)「現代の教育の諸相1～14に関して、一つもしくは関連する複数のテーマについて、いくつかの文献に当たり、多角的に考察し、自らの意見を述べなさい。 図表を含めA4二枚以上三枚以内、4,500字～4,800字で44点満点とする。					
	Poor (F)	Beginning (C)	Developing (B)	Accomplished (A)	Exemplary (A+)
取りあげたテーマに関して自らの考えを述べている(20点満点)。	◆問題意識(仮説)がなく、何を論じたいのかわからない。 ◆他人の意見ばかりで自らの意見がほとんど述べられていない。 ◆レポート試験課題に沿っていない。(0～4点)	◆問題意識(仮説)が不明確か、ありふれている。 ◆参照した一部の文献に引きずられた形で自らの主張をまとめている。(5～8点)	◆問題意識(仮説)は述べられているが、反証が十分に調べられていない。 ◆自らの主張の正当性を根拠に基づいて説得できていない。 ◆結論がありふれたものになっている。(9～12点)	◆自らの問題意識(仮説)に基づき、賛否両論の文献に当たり、自らの考えをまとめているが、結論の新規性、独自性あるいは説得力にやや難がある。(13～16点)	◆興味深い切り口(仮説)で問題点を指摘し、十分な量の根拠と独自の思索に基づき結論を導いている。(17～20点)
根拠に基づき、論理的な説明ができていない(10点満点)。	◆情緒的な文章が続き、まったく論理的な説明ができていない。 ◆引用文献、参考文献がなく、根拠がまったく示されていない。(0点)	◆一部根拠を示しているが、参照したデータや文章の意味を取り違えたり、論理的な説明ができていなかったりする。(1点)	◆根拠を示し、概ね正確に引用しているが、読み手を納得させる書き方や結論となっていない。(2～4点)	◆根拠に基づき、論理的な説明がほぼできている。(5～7点)	◆根拠と論理的な説明に基づき、正確かつ説得力のある結論を導いている。(8～10点)
誤字脱字がなく、段落も明確で、読みやすい文章となっている(3点満点)。なお、文章量が適切であることが前提である。	◆誤字脱字が3つ以上あるか、段落が区切られていない箇所が3箇所以上ある。 ◆文章量が規定より多い、または少ない。(0点)	◆誤字脱字が1つ以上あるか、段落が区切られていない箇所が1箇所以上ある。(1点)		◆誤字脱字がなく、段落も明確で、読みやすい文章となっている。(3点)	
「だ・である」体で統一して書かれている(3点満点)。	◆「だ・である」体で書かれていない箇所が3カ所以上ある。(0点)	◆「だ・である」体で書かれていない箇所が1カ所以上ある。(1点)		◆「だ・である」体で統一して書かれている。(3点)	

表7 小レポート課題の第二段階ルーブリック(手順3、減点法)

(課題例)あなたは、日本の子どもたちの学力や学習意欲が低下した原因には、学習指導要領を除いてどのようなものがあると考えますか? 3つ考えられるものを挙げ、その理由を述べてください。

1. 3つ原因が挙げてあり、その理由が述べられているか
 - 1つしか挙げていない2点減点
 - 2つしか挙げていない1点減点
2. 原因について深く考察できているか
 - 授業で取り上げたものを反復してあるだけ1点減点
 - 理由がいい加減であったり、一人よがりの見解が書いてある1点減点
3. 論理構成と書き方が適切か
 - 誤字脱字が多い1点減点
 - 字が読みづらい1点減点
 - 段落がない1点減点
 - 論旨が不明確である1点減点
 - だ、である体で書かれていない1点減点
 - QRコードの不添付1点減点

4. 中央教育審議会高等学校教育部会 「ループリックを活用したアセスメント」 2012. 11. 19 関西国際大学 学長 濱名 篤(資料)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/_icsFiles/afieldfile/2012/12/07/1328509_05.pdf

関西国際大学コモンループリック (リサーチ) 1年生春学期～2年生春学期 (下位学年用)

	3	2	1	0
テーマのた て方 (調査目的 の設定)	実現可能なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されており、一般的な仮説や調査項目がたてられている。	テーマは設定されているが、仮説や調査項目が分かりにくい。	テーマがはつきりしない。調査項目および仮説が示されていない。
これまでに 明らかにさ れている知 見の活用	複数の情報源からこれまでに明らかにになった考え方や研究内容を示し整理している。	複数の情報源から、これまでに明らかにになった考え方や研究内容を、部分的であっても示している。	限られた情報源からであるが、これまでに明らかにになった考え方や研究内容を、何かしら紹介しているが、テーマとの関係が乏しい。	これまでの先行研究について示されていない。
研究方法と 分析の視点	目的とテーマに沿った研究方法を用い、分析の視点を示している。	研究方法と分析の視点について、必要なポイントを捉えている。	研究方法と分析の視点について示されているが、必要なポイントが捉えられていない。	研究方法と分析の視点が示されていない。
分析	リサーチで得られた情報をまとめ、類似点・相違点・パターンなど何らかの法則性を検討している。	リサーチで得られた情報をまとめることができている。	リサーチで得られた情報を列挙しているが、まとめることができている。	リサーチした内容をまとめられていない。
結論	リサーチから明らかにになったことについて記述し、これまでに学んだ考え方や研究内容とある程度関連付けて説明できている。	リサーチから明らかにになったことについて記述し、これまでに学んだ考え方や研究内容を用いて説明しようとしている。	リサーチから得られた情報についての記述はできているが、これまでに学んだ考え方や研究内容を用いた説明はできていない。	リサーチから得られた情報の記述もできておらず、これまでに学んだ考え方や研究内容も用いられていない。

関西国際大学コモンループリック (リサーチ) 2年制秋学期～(上位学年用)

	3	2	1	0
テーマのた て方 (調査目的 の設定)	独創的で、明確なテーマが設定されていて、それについての仮説や調査項目が分かりやすく整理されて示されている。	明確で、実現可能なテーマが設定されていて、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されているが、一般的な仮説や調査項目しか示されていない。
これまでに 明らかにさ れている知 見の活用	信頼できる様々な情報源から、これまでに明らかにされた知見や課題を、自分が明らかにしようとしている内容に関連づけて活用している。	信頼できる複数の情報源から、これまでに明らかにになった知見を、リサーチに関連づけて活用している。	複数の情報源からこれまでに明らかにになった知見を示している。	複数の情報源から、これまでに明らかにになった知見を、部分的にしか示していない。
研究方法と 分析の視点	複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしいいくつかの研究手法を用い、明確な分析の視点を示している。	複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしい研究手法を用い、分析の視点を示している。	目的とテーマに沿った研究方法を用い、分析の視点を示している。	研究方法と分析の視点について、必要なポイントしか捉えられていない。
分析	焦点に沿ってリサーチした内容を組織的にまとめ、類似点・相違点・重要な型(パターン化)の発見など様々な観点から検討している。	リサーチした内容を組織的にまとめ、類似点・相違点・パターン化など様々な観点から検討している。	リサーチで得られた情報をまとめ、類似点・相違点・パターンなど何らかの法則性を検討している。	リサーチで得られた情報をまとめることに終始している。
結論	リサーチから明らかにになったことについて整理し、専門基礎知識(自分の専門分野の概念や枠組み)を効果的に用いて、論理的に説明できている。	リサーチから明らかにになったことについて整理し、専門基礎知識を用いて論理的に説明できている。	リサーチから明らかにになったことについて記述し、専門基礎知識をある程度用いて説明できている。	リサーチから明らかにになったことについての記述しかできていない。

5. 優秀賞「パフォーマンス課題とルーブリックで発信力を問う英語授業～1年英語科 SP2 道案内「留学生に佐賀大学周辺マップを作って紹介しよう」を通して～」佐賀大学文化教育学部附属中学校 横山千晴

https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/tosho-syo/no29/29_jh_p46-63_yokoyama.pdf#search=%E5%A4%A7%E5%AD%A6+%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%96%E3%83%AA%E3%83%83%E3%82%AF%E8%A9%95%E4%BE%A1+%E3%82%B9%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%84

	発表に関わること			内容に関わること	
	声	目線・態度	visual aids	発表内容	質疑応答
A (5)	相手にわかりやすいように間や抑揚に気を付けながら、はっきりと大きな声で発表している。	相手と目線を合わせながら発表している。 (堂々としている)	話に合わせてタイミングよく、また効果的に写真やジェスチャーを使っている。	情報量が多く、内容がわかりやすい。聞き手が興味をもてるように工夫が見られる。	質問に対して、全て答えることができる。
B (3)	部分的に間や抑揚に気を付けたり、ところどころ聞こえない声で発表したりしている。	原稿にとりどころ目を落としながら発表している。 (3回まで)	話に合わせて写真やジェスチャーを使っているが、タイミングがずれていた、情報が少ない。	情報量が多いが、内容が少しわかりづらい。聞き手が興味をもつように、工夫が少し必要である。	質問に対して、ときどき答えることができる。
C (1)	聞き取りにくく、間や抑揚に工夫がない。	相手を見ず、原稿を見ながら発表している。	写真やジェスチャーを話に合わせて活用していない。	情報量が少なく、内容もわかりづらい。聞き手が興味をもてるよう工夫が必要である。	質問に対して、答えることができない。

6. 「授業/カリキュラムをデザインする」 島根大学教育開発センター 森朋子 (2010年度コンヴィヴィアルFD第1回「ランションFD」資料)

<http://cerd.shimane-u.ac.jp/fd/seika/proj3/files/101208.pdf>

●レポートの書き方				
	4	3	2	1
書式	すべての項目がある	一項目欠けている	二項目欠けている	三項目欠けている
表・グラフ	番号・タイトル・項目・単位等の書き忘れがないよう書ける	番号・タイトル・項目・単位等の書き忘れが2か所程度ある	番号・タイトル・項目・単位等の書き忘れが3か所程度ある	番号・タイトル・項目・単位等の書き忘れが4か所程度ある
導入・目的	レポートの内容への簡潔な導入が見られる	情報過多の傾向がある	ほとんど情報がない	レポートの中で展開される内容について全く情報がない
調査	調査手法に関して的確に説明を行っている	調査手法と無関係な問題について言及している	調査方法に関していくらか説明を行っている	調査方法について論じていない
結論	調査結果に対して論理的な説明があり、リサーチ	論理的ではあり、いくつかのリサーチエッセンスに	調査結果に対して非論理的であり、いくつかのリサーチ	調査結果の説明が非論理的であり、指定された形式内
印象	エッセンスのほとんどに対して言及している。	エッセンスに言及している。	チェックエッセンスに言及していない。	エッセンスに関して何も言及していない。
全体的な印象	読みやすい文章で、表紙も定式を用いて作成され、きちんと留めてある他、参考文献リストがある	読みやすい文章で、表紙も定式を用いて作成され、きちんと留めてある	読みやすい文章だが、レポートがホチキス留めになっていない	読みにくい文章で、枚数が足りない
提出状況	期限通り	2日以内での遅延	1週間以内での遅延	1週間以上の遅延

●グループ学習				
◎参加態度	4	3	2	1
調査と情報収集	非常に多くの情報収集がしてある。(すべて話題に関連したもの)	基礎的な情報収集をある程度してある	話題に関連する情報収集があまりない	話題に関連する情報が全くない。
情報共有	話題に関連するすべての情報を非常に多く伝達している	多くの話題に関連した基礎的な情報がある程度伝達している	話題に関連する情報を一部伝達している	共同作業者に情報を全く伝達していない
◎他者との協調と参加態度				
グループ作業への取り組み	決められたメンバーとしての役割を果たしている。	ほとんど全ての役割を果たしている。	ほとんど役割を果たさない。	決められたメンバーとしての役割を全然果たさない。
議論への参加	積極的に自らの意見を述べ、他のメンバーをその議論に巻き込める	積極的に自らの意見を述べるが、一方的である	うなずく等傾聴する姿勢が見られるが、積極的に意見を述べない	議論にまったく参加しない

●プレゼンテーション				
	4	3	2	1
構成	プレゼンは論理的に構成されており、興味深く、聴衆がついてこれる	論理的にプレゼンが構成されており、聴衆がついてこれる	体系だって説明されておらず、聴衆は内容について把握するのが難しい	構成が適切に組み立てられておらず、聴衆はプレゼンを理解できない
内容に関する知識	プレゼン内容の知識を十分に実証し、質問に答え、かつさらに詳しく説明できる	プレゼン内容についてすべてこたえられるが、さらに詳しく説明できない	プレゼン内容の知識に自信はないが、初歩的な質問には答えられる	プレゼン内容の知識が乏しく、内容に関する質問に答えられない
図表	プレゼン内容を補強するような図表を使っている	プレゼン内容を支持する図表を使っている	図表をたまに使っているが、プレゼン内容を支持していない	図表やグラフを使用していない
アイコンタクト	聴衆とアイコンタクトを保ち、ノートはほとんどみない	ほとんどの時間、聴衆とアイコンタクトをとるが、頻繁にノートにもどる	時折アイコンタクトを聴衆と取るが、ほとんどノートを読んでいる	資料を読むだけで聴衆とアイコンタクトをとっていない
演説法	明瞭な声で、相手に伝える意思をはっきりと持っている	明瞭な声で、相手に伝える意思を持っている	声が聞きずらく、相手につわりにくい	声が聞きずらく、相手に伝える意思が感じられない

プレゼン（ポスター発表）に関するルーブリック例

（生物資源科学部農業生産学科初年次教育科目「農業生産学科基礎セミナー」）

	4	3	2	1
発表の態度	以下の項目全てを満たす	1つ項目を満たさない	2つ項目を満たさない	3つ以上項目を満たさない
発表の技術	以下の項目全てを満たす	1つ項目を満たさない	2つ項目を満たさない	3つ以上項目を満たさない
質疑応答	以下の項目全てを満たす	1つ項目を満たさない	2つ項目を満たさない	3つ以上項目を満たさない

発表態度

聴衆の方を向く、話しかけるように説明する、不要な動作（体を揺らす、ポケットに手を入れるなど）をしない、不要なことば（ああ、ええとなど）を多用しない、明瞭に話す、時間配分が適切である、話す速さが適当である（早口になっていない）

発表の技術

適切なときに図、表を指さして説明する、はなしの構成（序論-本論-結び）がしっかりしている、脱線しないで本筋だけを話す、論理的に話している、証拠である事実とそれから得た推論をしっかり区別している

質疑応答

質問内容をきちんと把握している（質問によっては復唱している）、短く的確な答えを述べている、なるべく参加者に均等に質問の機会を与える、質問にまじめに答えている、答えのわからない質問の場合などきちんとわからないことを伝えている、冷静に落ち着いて応答し、不要な論争をしない

II. ルーブリック評価の作り方

（※到達目標の見直しにもなる）

- ①まずは到達目標に合わせて作成（2-3 立命館大学の例を参照）。
- ②足りない到達目標を補う。
- ③ルーブリック評価を完成させる。
- ④UNIPA のクラスプロファイルの授業資料に掲載または授業で配付